

## 時間みつめる

野口 常久

こんにちは。今日は私が大学生活で出会った、心に残る作品を紹介します。

大学生活はあっという間に過ぎてしまうといえます。私もその例外ではありませんでした。やりたいことが次から次へと出てきて気づいたら時間が過ぎていました。

1冊目は北村薫著「スキップ」です。ある日、目覚めると少女は夫と娘を持つ42歳の国語教師になっていた。25年の歳月を失い、底知れぬ悲しさが女性の心理描写も巧みに描かれている。しかし、どんな逆境にもめげず、彼女は今ある時間の中で前を向いて歩いていく。生きる時間は短くなったが、問題はそこではない。大切なのはどれだけ長く生きるかという人生の長さよりもどのように生きるかという生きる内容にあると気づかせてくれる。時間の価値について考えさせられる作品である。

私も卒業が近づくにつれ、「ああ、もう少しで学生生活が終わる。」と思っていたが、本書を読み終え「まだ卒業までこれだけの時間があるから、あれをしよう、これをしよう。」と考えることもできるのだと気づかされた。

「時間節約こそ幸福への道！時間節約をしてこそ未来がある。君の生活を豊かにするために、時間を節約しよう！時間は貴重だ！無駄にするな！時は金なり！節約せよ！」

眠る間も惜しんで時間があれば問題集を解いたり、英文を暗記したり学業オンリーで生活していた頃、私の中に根付いていた標語はまさしく「Time Is Money」であった。時間がもったいない。だから時間を節約せねばと頭の中はそれでいっぱいだった。

2冊目に紹介するのはミヒヤエル・エンデ著「モモ」である。時間を節約させ、その時間を奪って

いく時間泥棒からモモという少女が時間を取り戻す話である。

「時間をケチケチすることで本当はぜんぜん別の何かをケチケチしていることに誰一人気がついてはいないようでした。自分たちの生活が日ごとに貧しくなり、日ごとに画一的になり、日ごとに冷たくなっていることを、誰一人認めようとはしませんでした。けれど、時間とはすなわち生活なのです。そして生活とは人間の心の中にあるものなのです。人間が時間を節約すればするほど、生活はやせ細ってなくなってしまうのです。」

時間を節約することは素晴らしいが、節約だけに焦点を当ててしまうと、その時間は価値のないものと化してしまうのではないだろうか。私は時間の節約には具体的な目標を設定することが絶対必要だと思う。ただ、お金がほしいから、英語が上手になりたいから、資格をとりたいたから、といった漠然とした理由ではなく、お金をためて自分の店を持ちたいとか、英語を使って将来どここの外資系で働きたいからとか、この資格をとってこれこれするんだといった具体的な目的を設定しないとその時間は思ったより空虚なものになるだろう。

走れといわれて、走らされているより、20km走れと言われて走るほうが目標が設定されていてより効率的ではないだろうか。時間は飼いなすことが難しい動物である。しっかりと意識付けをしていないと、時間に飲み込まれてしまう。

時間は何であるか改めて考える機会をくれる作品として私は本書をお勧めする。

最後に「モモ」に登場する時間の支配者ホラの言葉を引用して、話を締めたいと思う。

「時間というのはね、人間ひとりひとりの胸の中にあるものを、きわめて不完全ながらもまねて象ったものなんだ。--もしも心が時間を感じとらないような時には、その時間はないのと同じだ。」

のぐち つねひさ

(英米語学科 2000年度卒業生)